

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	竹原市立吉名小学校		
学校長氏名	徳森 友希男	栄養教諭氏名	高瀬 朋子
職員数	14名	児童・生徒数	121名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- 基本的生活習慣の確立，食事マナーの定着，体力向上を目指し，学校と家庭が連携した継続的な取組。
- 地域生産者や外部人材を積極的に活用し，食に関する知識や実践力の育成。
- 義務教育学校9年間を見通した食育の推進。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- 食育計画をもとにした食育の推進
 - ・全教員による給食指導と各種検定により，食事マナーを徹底させる。
 - ・全教員による給食指導を実施し，「食事作法や食事の大切さがわかった」と答える児童90%以上を目指す。
 - ・栽培活動を通して食の興味関心を高め，地域の産物のよさを知り，収穫の喜びや感謝の心を育てる。
 - ・「自分達で育て，収穫することに熱心に取り組んだ」と答える児童90%以上を目指す。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 食事マナーに気をつける児童の割合の増加

- 元気いっぱいカード週間の取組
 - ・食事マナーの定着にむけて給食の時間を中心に取り組んでいる。学校で実施後，元気いっぱいカードを家庭に持ち帰り，家庭でも実践できるように取り組んでいる。
 - ・家庭での食事マナーの定着を図るため，長期休業中に，食のチャレンジや元気いっぱいカード週間に取り組んでいる。
- おはし検定
 - ・箸の持ち方は鉛筆の持ち方につながることから，1年生を中心におはし検定に取り組んでいる。児童は，保護者に正しい箸の持ち方を教わるなど家庭の協力が得られている。

【取組2】（テーマ） 各教科と関連した栽培活動の充実

- 栽培活動の充実
 - ・栽培活動を通して食への興味関心を高め，地域の産物を理解し，収穫の喜びや自然の恵みに感謝する心や食文化を尊重する心を育てることをねらいとして年間計画に基づき実施している。
 - ・栽培活動を豊かなものにするために，地域生産者からの栽培指導や保育所・中学校との交流活動を仕組んでいる。また，栽培作物を使った料理を考案し，地域の料理コンテストへ出品したり，親子料理教室で活用したりすることで児童は意欲的に活動している。
 - 1 学年 生活科「なつだあそぼう」保育所とのさつまいも収穫（ハニレモ煮作り）
 - 2 学年 生活科「やさいをそだてよう」野菜パーティー（ハニレモ煮作り）
 - 3 学年 総合的な学習の時間「野菜のひみつ探検隊」地域生産者との交流
(トマト料理)

- 4 学年 総合的な学習の時間「吉名の旬の食材を調べよう」地域生産者との交流
(大根料理)
- 5 学年 総合的な学習の時間「吉名のじゃがいもをアピールしよう」
保育所・中学校との交流(じゃがいも料理)
- 6 学年 家庭科「福祉弁当活動に参加しよう」吉名女性会・高齢者との交流
(じゃがいも料理)



【取組 3】(テーマ) 早寝・早起き・3色朝ごはんに気をつける児童の割合の増加

○元気いっぱいカード週間の取組

生活リズムの確立にむけて、学校と家庭が連携し継続的に取り組んでいる。取組後は課題を明確にし、翌月に重点的に取り組むなど取組の充実や改善を図っている。

○保護者用啓発資料の作成

朝食内容の例や3色食品群、朝食の働きなどを示した「3色朝ごはんマット」を作成し家庭へ配布している。

○企業連携

6年生を対象に、企業の研究データをもとに朝食と睡眠の重要性について出前講座を実施した。

○健康相談

生活リズムや朝食に課題のある児童を対象に、個人懇談後に保護者と養護教諭、栄養教諭が個別相談を行っている。児童の学校生活や家庭生活を共有し、課題解決の糸口を見出す機会としている。これらは記録をとり、経過観察等や経過記録に基づく指導の充実を図っている。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○5年生総合的な学習の時間において地場産物を使ったレシピを応募した。

○食育だよりや校内掲示物で、ひろしま給食100万食プロジェクトの概要とひろしま給食5つのメニューの作り方などを啓発した。

○スーパーマーケット、公民館などでひろしま給食レシピやチラシを配布した。

○生活科や総合的な学習の時間において、学級園の栽培作物を活用し、ひろしま給食メニューを調理した。また、栽培作物を家庭に持ち帰ることで、家族と一緒にひろしま給食を作って食べる機会とした。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

○食事マナーの定着

【食事マナーに気をつけている】

児童 中間肯定的評価 99% 最終肯定的評価 97%

保護者 中間肯定的評価 78% 最終肯定的評価 83%

- ・全教員による給食指導とおはし検定により、食事マナーの定着化を図った。
- ・家庭でも食事マナーを意識させるため、冬休み元気いっぱいカード週間に取り組んだ。マナーのめあてを保護者と相談して決めることで、家庭でのマナーの意欲向上につながった。
- ・正しい箸の持ち方の習得にむけておはし検定に取り組んだ結果、家で練習する児童も多く上達している。

○栽培活動の充実

【野菜などを自分で育て、収穫することに積極的に参加することができた】

児童 中間肯定的評価 88% 最終肯定的評価 90%

保護者 中間肯定的評価 95% 最終肯定的評価 97%

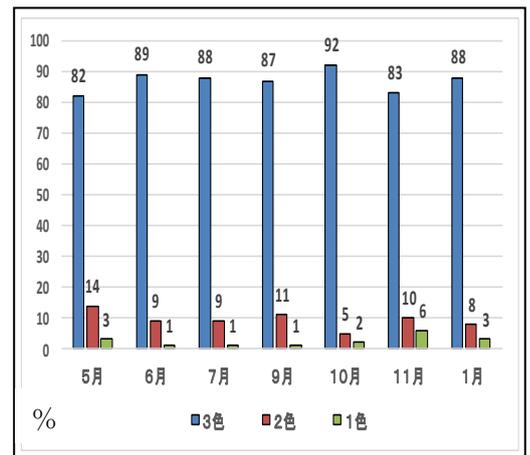
- ・地域生産者からの専門的な指導を受けることで、探究的に活動することができた。
- ・栽培活動や緑化活動において、継続的に相手意識、目的意識をもたせたことで栽培意欲の向上につながった。

○朝食内容の改善

・3色そろった朝食を食べる児童の割合は5月82%から1月88%に増加した。また、2色の朝食を食べた児童は5月14%から2月8%に減少し、朝食内容に改善がみられた。

・学級懇談や個別相談で、朝食の重要性や「3色朝ごはん」を食べるための調理の工夫について話し合いの場を設けたり、簡単朝食レシピを配布したりした結果、バランスよい食事の提供や食事時間を確保するなど、食生活の改善が図られている。

・朝食に課題のある児童を対象に個別面談をした結果、家庭科で学んだことを生かして自ら実践し、食生活をよりよくしようとする姿が見られた。



これまでの取組が評価され、平成28年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動で文部科学大臣表彰を受賞した。

【課題】

- 食事マナーアンケートでは、児童と保護者の肯定的評価に差がある。
- 基本的な生活習慣に課題のある児童が固定化している。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- 食事マナーの定着を図るため、家庭へつなげるよう取組を充実させる。
- 基本的な生活習慣の確立に向けて、関係機関と連携するなど個別指導の在り方を工夫する必要がある。
- 義務教育学校開校に向けて小学校・中学校独自で行っている食育を、さらに充実した取組になるように見直しを図る。